

子宮頸がん予防ワクチン（HPV ワクチン）



HPV ワクチンの積極的勧奨が再開されました

HPV ワクチンは、平成 22（2010）年 11 月からはじまり、平成 25（2013）年 4 月に予防接種法に基づく定期接種に位置づけられました。が、接種後に重篤な副反応が生じたという報道があり、平成 25（2013）年 6 月から積極的勧奨を差し控えていましたが、専門家の調査結果に基づいて令和 3（2021）年 11 月「HPV ワクチンの積極的勧奨を差し控えている状態を終了させることが妥当」とされました（以上厚労省資料一部改変）。

まれで重篤な HPV ワクチンの副反応について

かつて HPV ワクチン接種後に体の痛みや麻痺などを訴える女性が相次ぎ、メディアで大きく報道されました。厚労省によると、接種した人 1 万人のうち約 10 人は、接種後に何らかの症状が報告され、このうち、約 6 人は入院など、重篤な症状と判断されています。こうした症状が実際に起きていることは事実でも、その後の調査で「HPV ワクチンそのもののせいで起きた症状とはいえない」と報告されています。

疫学調査（祖父江班） 結論

HPV ワクチン接種歴のない者においても、HPV ワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を有する者が、一定数存在した。

HPV ワクチンは米国 FDA が 2006 年に認可、すでに 15 年以上世界中で使われているワクチンで比較的安全と考えますが、接種後に因果関係は分からなくても何らかの症状が出た場合担当医師にご相談ください。

参考：HPV ワクチン接種後によく見られる一時的で軽微な副反応について

発生頻度	サーバリックス®(2価HPVワクチン)	ガーダシル®(4価HPVワクチン)
50%以上	疼痛(99.0%)、発赤(88.2%)、腫脹(78.8%)、疲労感	疼痛(82.5%)
10～50%未満	掻痒、腹痛、筋痛・関節痛、頭痛等	腫脹(25.4%)、紅斑(30.2%)
1～10%未満	蕁麻疹、めまい、発熱等	掻痒・出血・不快感、頭痛、発熱
1%未満	注射部位の知覚異常、感覚鈍麻、全身の脱力	硬結、四肢痛、骨格筋硬直、腹痛・下痢
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症等	疲労・倦怠感、失神、筋痛・関節痛、嘔吐等

9 価 HPV ワクチンは、4 価と比較して接種部位の症状はやや強いが全身症状は同程度です。

HPV ワクチンの定期（公費）接種について

・定期接種の対象者：小学校6年～高校1年相当の女性

※誕生日が1997年4月2日～2008年度生まれまでのかたで過去にHPV ワクチンを3回接種していないかたは、2022年4月～2025年3月までの3年間、公費接種が受けられます。なお、2024年12月時点でキャッチアップ接種の期間延長と対象者の拡大が決まっています（詳細は厚労省のHP やお住まいの市町村にご確認ください）

当院でHPV ワクチンの定期（公費）接種ご希望のかたへ

当院では金曜日午後と土曜日午前中の婦人科外来で随時承っています。HPV ワクチン接種は予約が必要ですので、あらかじめ当院医事課までご連絡ください。

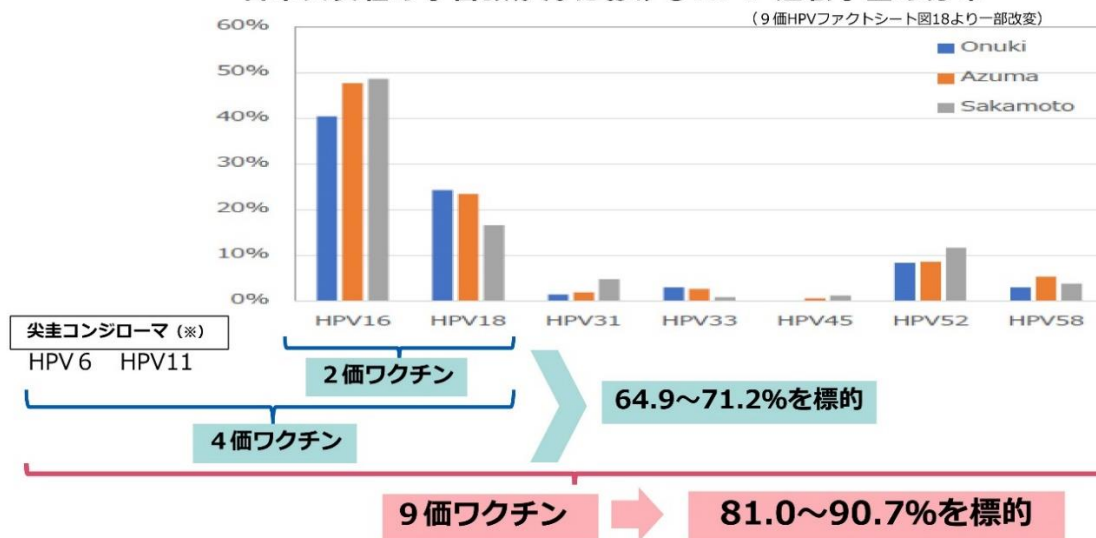
参考：ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がんとHPV ワクチン～厚労省HP



本邦で承認されているHPVワクチン



日本人女性の子宮頸がんにおけるHPV 遺伝子型の分布



※ HPV6、11型は、尖圭コンジローマの主な原因となる遺伝子型である。

9 価ワクチンは高い感染予防効果がありますが子宮頸がんを 100%予防できるものではないため、子宮頸がん検診も必要です。